

2022年1月7日 日刊建設工業新聞

建築科39人の 集大成が並ぶ

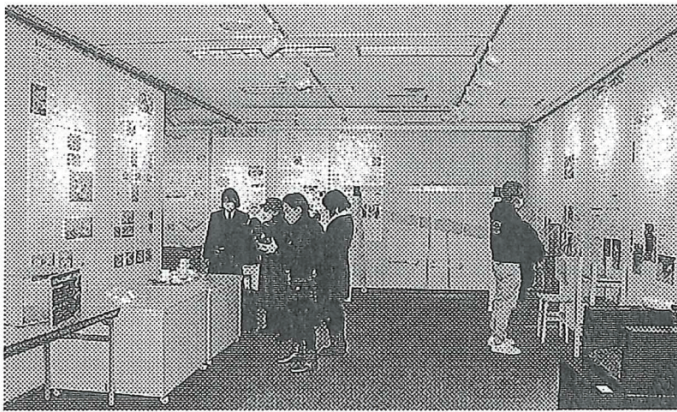
兵庫工高卒業展

兵庫県立兵庫工業高校（神戸市兵庫区）の建築科3年生39人による「卒業2021-22」（後援・協賛・総合資格学院、兵庫県建築士事務所協会、兵庫県建築士会、兵庫県建設業協会）が2021年12月25、26の両日、神戸市中央区のアートホール神戸で開かれた写真。

会場には住宅・商業施設やインテリア、模型作品など集大成となる卒業設計39

点を展示。学外コンペの出展作品も多数並んだ。

学外での開催は今回で4回目。生徒らの学習内容を



発信する場として同校の広報につながっている。

生徒たちは就職・進路活動と両立しながら、作品モデル場所の現地調査を行うなど意欲的に取り組み、それぞれの自信作を完成させた。

同12月26日午後から選抜作品発表会を開催。西本和樹建築科長が「発表会は、生徒が自ら作品をプレゼンテーションし人に感動を与えることで、心豊かなものづくりに従事できる人材を育てるための貴重な機会となっている。来場されている保護者の皆さんには3年

間の学習内容が詰まった、ありのままの姿を見ていただきたい」とあいさつした。

発表会では、同校で2人目となる「日本大学全国高等学校建築設計競技」の最優秀賞を受賞した貴島渚さんら13人が作品のコンセプトなどをプレゼンテーションした。

貴島さんの作品「みんなで豪邸 〓人の手を入れ続ける家〓」では、神戸市垂水区の急傾斜地に残る大規模邸宅のリノベーションを計画。地域住民の農業活動の場や防災拠点として活用していく方策を提案した。